

## 国際競争力のある「副首都」に向けて

2016年2月9日

原 英史

### 1、他都市との比較での弱点克服

→ 前回、「世界都市ランキング」に基づき整理。

(国際交通ネットワーク、外国人受入れ、優秀な人材確保、文化など)

### 2、世界のトップを狙う突出した強みの創出

「あらゆる分野で（東京に次ぐ）第二の都市」ではなく、

「特定分野では第一の（世界トップを狙う）都市」

cf. 米国： ワシントンDC（政治）、ニューヨーク（金融）、シリコンバレー（ハイテク産業・イノベーション）・・・

具体的に考えられるプランとして、

#### (1) 特定分野に絞った集積・イノベーション拠点の創出

##### ◆「医療・ヘルスケアのイノベーション拠点」

- ・ 関係政府機関（研究機関など）の集中
  - ・・・この分野に限っては東京を弱める？
- ・ 外国の研究機関・人材などの誘致、世界標準の雇用制度など

(参考例) 深センの第4次産業革命イノベーション拠点化

- ・ シリコンバレーの仕組み（インキュベーション、ベンチャーキャピタル）をコピー。
- ・ 加えて、ものづくりの現場のある環境を活かし、効率的な試作を可能に。

#### (2) 新たなコンセプトに基づく集積の創出

##### ◆「公益庁」構想をもとにふくらませると、

- ・ 教育・研究・文化などの諸分野で、「納税→役所→関係法人へ配分」という東京政府のルートとは別に、「寄付→関係法人」という大阪政府のルートの構築。
  - ・ 例えば、関係法人による寄付者向け説明会（企業の株主総会類似）を、大阪を拠点に定期開催する仕掛け。
- 公益庁を核に、寄付先の評価・格付け、寄付先選定アドバイスなど、新たなサポート産業・市場の集積へ。

##### ◆監視的な機能の集積（それだけで「突出した強み」というより、補完的だが）

- ・ 公的部門では、最高裁、会計検査院、国会の決算・監視機能など。
- ・ 民間部門では、マスコミ、自由度の高い言論、シンクタンクなど。